

2022年3月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2021年8月12日

上場会社名 株式会社リクルートホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6098 URL <https://recruit-holdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 出木場 久征
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 荒井 淳一 (TEL) 03(6835)1111(代表)
 四半期報告書提出予定日 2021年8月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)
 決算資料及び説明会動画等の掲載先 : <https://recruit-holdings.co.jp/ir/>

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上収益 | | 営業利益 | | 税引前利益 | | 四半期利益 | | 親会社の所有者に 帰属する四半期利益 | | 四半期包括利益 合計額 | |
|---------------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|-----------------------|-------|----------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第1四半期 | 664,712 | 39.8 | 104,717 | 292.6 | 105,407 | 269.2 | 78,043 | 247.5 | 77,864 | 248.8 | 85,328 | 191.7 |
| 2021年3月期第1四半期 | 475,488 | △20.0 | 26,671 | △62.6 | 28,547 | △65.3 | 22,457 | △62.3 | 22,323 | △62.4 | 29,256 | △19.9 |

| | 調整後EBITDA | | 調整後EPS | | 基本的1株当たり 四半期利益 | 希薄化後1株当たり 四半期利益 |
|---------------|-----------|-------|--------|-------|-------------------|--------------------|
| | 百万円 | % | 円 銭 | % | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第1四半期 | 125,677 | 135.2 | 51.24 | 193.0 | 47.64 | 47.49 |
| 2021年3月期第1四半期 | 53,431 | △38.8 | 17.49 | △47.5 | 13.54 | 13.52 |

(2) 連結財政状態

| | 資産合計 | 資本合計 | 親会社の所有者に 帰属する持分 | 親会社所有者 帰属持分比率 |
|---------------|-----------|-----------|--------------------|------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年3月期第1四半期 | 2,235,088 | 1,174,869 | 1,165,465 | 52.1 |
| 2021年3月期 | 2,196,613 | 1,101,289 | 1,091,571 | 49.7 |

2. 配当の状況及び予想

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | - | 9.50 | - | 10.50 | 20.00 |
| 2022年3月期 | - | - | - | - | - |
| 2022年3月期(予想) | - | 10.50 | - | 10.50 | 21.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上収益 | | 調整後EBITDA | | 営業利益 | |
|----------|-----------|------|-----------|------|---------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期 | 2,600,000 | 14.6 | 360,000 | 49.0 | 270,000 | 65.8 |
| | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ |
| | 2,700,000 | 19.0 | 430,000 | 77.9 | 340,000 | 108.8 |

| | 税引前利益 | | 当期利益 | | 親会社の所有者に 帰属する当期利益 | | 調整後EPS | |
|----------|---------|-------|---------|------|----------------------|------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 | % |
| 2022年3月期 | 270,000 | 60.2 | 200,000 | 51.9 | 200,000 | 52.2 | 136.32 | 65.1 |
| | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ |
| | 340,000 | 101.8 | 250,000 | 89.8 | 250,000 | 90.3 | 166.92 | 102.2 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2022年3月期連結業績予想についての詳細は、7ページ「2. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社(社名) 、除外 1社(社名) (株)リクルートキャリア

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更
 ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|------------|----------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2022年3月期1Q | 1,695,960,030株 | 2021年3月期 | 1,695,960,030株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年3月期1Q | 61,568,855株 | 2021年3月期 | 61,763,564株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2022年3月期1Q | 1,634,344,467株 | 2021年3月期1Q | 1,648,642,191株 |

(4) 各種指標の算式

| 指標 | 算式 |
|-----------|--|
| 調整後EBITDA | 営業利益 + 減価償却費及び償却費(使用権資産の減価償却費を除く) ± その他の営業収益・費用 |
| 調整後当期利益 | 親会社の所有者に帰属する当期利益 ± 調整項目(非支配持分帰属分を除く) ± 調整項目の一部に係る税金相当額 |
| 調整後EPS | 調整後当期利益 / ((期首発行済株式総数 + 期末発行済株式総数) / 2) - (期首自己株式数 + 期末自己株式数) / 2 |
| 調整項目 | 企業結合に伴い生じた無形資産の償却額 ± 非経常的な損益 |
| 非経常的な損益 | 子会社株式売却損益、事業統合関連費用、固定資産売却損益/除却損等、 恒常的な収益力を表すために、当社が非経常的であり利益指標において調整すべきであると判断した損益 |

四半期においては、「当期」を「四半期」、「期末」を「四半期末」に読み替えて計算しています。

2022年3月期第1四半期より、調整後EPSの計算方式を変更していますが、この影響は軽微です。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述には、別段の記載がない限り本資料の発表日現在における当社が入手可能な情報並びに当社の計画及び見込みに基づいた当社の想定、将来の見通し及び推測が含まれますが、これらが達成される保証はありません。

経済状況の変化、個人ユーザーの嗜好及び企業クライアントのニーズの変化、他社との競合、法規制の環境変化、為替レートの変動その他の様々な要因により、将来の予測・見通しに関する記述は実際の業績と大幅に異なる場合があります。従って、将来見通しに関する記述に過度に依拠することのないようお願いいたします。当社は、適用ある法令又は証券取引所の規則により要求される場合を除き、本資料に含まれるいかなる情報についても、今後生じる事象に基づき更新又は改訂する義務を負うものではありません。

本資料には、当社が事業を行っている市場に関する情報を含む、外部の情報源に由来し又はそれに基づく情報が記述されています。これらの記述は、本資料に引用されている外部の情報源から得られた統計その他の情報に基づいており、それらの情報については当社は独自に検証を行っておらず、その正確性又は完全性を保証することはできません。

添付資料の目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する連結経営成績等 | 2 |
| (1) ハイライト | 2 |
| (2) 連結経営成績の概況 | 3 |
| (3) セグメント業績の概況 | 4 |
| (4) 当四半期における経営施策 | 6 |
| (5) 連結財政状態の概況 | 6 |
| (6) 連結キャッシュ・フローの概況 | 7 |
| 2. 連結業績予想に関する定性的情報 | 7 |
| 3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 | 9 |
| (1) 要約四半期連結財政状態計算書 | 9 |
| (2) 要約四半期連結損益計算書 | 11 |
| (3) 要約四半期連結包括利益計算書 | 12 |
| (4) 要約四半期連結持分変動計算書 | 13 |
| (5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 15 |
| (6) 継続企業の前提に関する注記 | 16 |
| (7) 要約四半期連結財務諸表注記 | 16 |

本資料の省略表記

| 省略表記 | 意味 |
|---------|-------------------------------------|
| 当社 | (株)リクルートホールディングス |
| 当社グループ | (株)リクルートホールディングス及び連結子会社 |
| SBU | 戦略ビジネスユニット(Strategic Business Unit) |
| IFRS | 国際会計基準 |
| 前第1四半期 | 2020年6月30日に終了した3ヶ月間 |
| 当第1四半期 | 2021年6月30日に終了した3ヶ月間 |
| 前連結会計年度 | 2021年3月31日に終了した1年間 |
| 当連結会計年度 | 2022年3月31日に終了する1年間 |

期中平均為替レート

(単位:円)

| | 2021年3月期 | | | | 2022年3月期 |
|-----|----------|---------|---------|---------|----------|
| | 第1四半期 | 第2四半期累計 | 第3四半期累計 | 第4四半期累計 | 第1四半期 |
| 米ドル | 107.63 | 106.93 | 106.11 | 106.10 | 109.52 |
| ユーロ | 118.59 | 121.34 | 122.44 | 123.76 | 131.94 |
| 豪ドル | 70.74 | 73.32 | 74.35 | 76.21 | 84.30 |

補足情報

- 本資料における表の単位は、別途記載がない限り10億円です。
- 各種経営指標の算式は前ページに記載のとおりです。
- HRテクノロジー事業の米ドルベース売上収益は現地決算数値であり、当社連結決算数値に含まれる数値とは異なります。
- 人材派遣事業に関して、2022年3月期第1四半期より、国内派遣を「日本」、海外派遣を「欧州、米国及び豪州」へそれぞれ表記を変更しています。

1. 当四半期決算に関する連結経営成績等

(1) ハイライト (増減率は別途記載がない限り前年同期からの増減率)

連結業績

- 連結売上収益及び連結調整後EBITDAは共にHRテクノロジー事業が大きく貢献し増収増益
- 連結調整後EBITDAマージンはHRテクノロジー事業のマージン上昇が大きく貢献し上昇
- 調整後EPSは193.0%増の51.24円

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | | | |
| HRテクノロジー | 74.1 | 184.4 | 148.9% |
| メディア&ソリューション | 132.9 | 151.8 | 14.2% |
| 人材派遣 | 274.2 | 335.1 | 22.2% |
| 合計(注) | 475.4 | 664.7 | 39.8% |
| 調整後EBITDA | | | |
| HRテクノロジー | 7.8 | 69.4 | 783.9% |
| メディア&ソリューション | 27.3 | 31.5 | 15.2% |
| 人材派遣 | 19.8 | 26.2 | 32.3% |
| 合計(注) | 53.4 | 125.6 | 135.2% |
| 調整後EBITDAマージン | | | |
| HRテクノロジー | 10.6% | 37.7% | — |
| メディア&ソリューション | 20.6% | 20.8% | — |
| 人材派遣 | 7.2% | 7.8% | — |
| 連結 | 11.2% | 18.9% | — |
| 営業利益 | 26.6 | 104.7 | 292.6% |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 22.3 | 77.8 | 248.8% |
| 調整後EPS(円) | 17.49 | 51.24 | 193.0% |

(注) 「全社/消去」調整後の数値を記載しているため、各セグメントの金額合計と一致していません。

HRテクノロジー:

- 増収増益。売上収益は148.9%増、米ドルベース売上収益は144.5%増。採用需要の高まりを受け有料求人広告利用が増加したことが主な要因。
- 調整後EBITDAマージンは37.7%。費用の増加を上回る大幅な増収により前年同期比で上昇。

メディア&ソリューション:

- 増収増益。売上収益は14.2%増。販促領域、人材領域ともに増収。販促領域は住宅及び美容が増収を牽引、人材領域は大幅に落ち込んだ求人広告サービスが前年同期比で緩やかに回復。
- 調整後EBITDAマージンは20.8%。戦略的なマーケティング投資及び商品開発投資を実施し、前年同期比横ばい。

人材派遣:

- 増収増益。売上収益は22.2%増(為替影響除きは15.7%増)。欧州、米国及び豪州の増収増益が大きく寄与。日本は増収減益。
- 調整後EBITDAマージンは7.8%。欧州、米国及び豪州のマージン上昇が寄与。

2022年3月期 連結業績予想:

- HRテクノロジー、人材派遣の通期見直しを変更し、2021年5月17日の開示から上方修正。詳細はP7。

(2) 連結経営成績の概況

当第1四半期の連結経営成績は以下のとおりです。

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 連結経営成績 | | | |
| 売上収益(注) | 475.4 | 664.7 | 39.8% |
| 営業利益 | 26.6 | 104.7 | 292.6% |
| 税引前四半期利益 | 28.5 | 105.4 | 269.2% |
| 四半期利益 | 22.4 | 78.0 | 247.5% |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 22.3 | 77.8 | 248.8% |
| 経営指標 | | | |
| 調整後EBITDA | 53.4 | 125.6 | 135.2% |
| 調整後EBITDAマージン | 11.2% | 18.9% | - |
| 調整後EPS(円) | 17.49 | 51.24 | 193.0% |

(注)為替によるプラス影響211億円を控除した売上収益は前年同期比35.3%増

当第1四半期は、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大と各国の感染拡大防止策による影響が残る一方、米国や欧州では新型コロナウイルスワクチン接種状況の進捗とともに経済活動の回復が顕著となり、人材採用が活発化しました。日本国内では緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が継続し、経済活動の回復は緩やかなものとなりました。

その結果、売上収益は、HRテクノロジー、メディア&ソリューション及び人材派遣の全事業の増収に伴い、前年同期比39.8%増加しました。調整後EBITDAマージンは主にHRテクノロジー事業の調整後EBITDAマージンの上昇が貢献し18.9%、調整後EBITDAは前年同期比で135.2%増と大幅に増加しました。調整後EPSは前年同期比193.0%増の51.24円となりました。

当第1四半期の販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりです。

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|------------|--------|--------|--------|
| 販売手数料 | 5.6 | 6.9 | 22.7% |
| 販売促進費 | 3.9 | 8.6 | 116.8% |
| 広告宣伝費 | 16.1 | 42.5 | 164.5% |
| 従業員給付費用 | 102.7 | 123.2 | 20.0% |
| 業務委託料 | 22.4 | 32.5 | 45.1% |
| 賃借料 | 5.3 | 4.9 | △7.1% |
| 減価償却費及び償却費 | 28.4 | 29.4 | 3.5% |
| その他 | 19.1 | 18.6 | △2.8% |
| 合計 | 203.8 | 266.9 | 31.0% |

なお、当第1四半期における研究開発費は、190億円となりました。

(3) セグメント業績の概況

HRテクノロジー事業

当第1四半期のHRテクノロジー事業の業績は以下のとおりです。

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | 74.1 | 184.4 | 148.9% |
| 調整後EBITDA | 7.8 | 69.4 | 783.9% |
| 調整後EBITDAマージン | 10.6% | 37.7% | - |
| 米ドルベース売上収益(百万米ドル) | | | |
| 米国 | 522 | 1,295 | 148.0% |
| 米国以外 | 166 | 388 | 133.6% |
| 合計 | 688 | 1,683 | 144.5% |

当第1四半期の売上収益は、前年同期比148.9%増、米ドルベース売上収益は144.5%増と大幅に増加しました。これは主に、採用需要の高まりを受け有料求人広告利用が増加したことによるものです。低調な求職活動と強い採用需要の乖離によりIndeed及びGlassdoor上での採用競争が継続したことが、売上収益の増加に大きく影響しました。

米国の売上収益は、引き続き増加が加速し、前年同期比148.0%増となりました。また、米国以外の売上収益は、前第4四半期から大きく改善し、前年同期比133.6%増となりました。特に欧州やカナダは、前第4四半期の米国同様、事業の再開により採用需要が増加し、売上収益が増加しました。米国では当第1四半期の終盤にかけて、求職活動が新型コロナウイルス感染症発現前の水準に近づき、求職活動と採用活動の乖離に平準化の兆しがみられました。

当第1四半期の調整後EBITDAマージンは、費用の増加を上回る売上収益の大幅な増加により、37.7%となりました。マーケティング投資は前第1四半期に大幅な削減を行ったため前年同期比で増加し、将来の成長に向けた商品開発や新しいテクノロジーへの投資も継続的に実施しました。調整後EBITDAは前年同期比783.9%増と大きく増加しました。

メディア&ソリューション事業

当第1四半期のメディア&ソリューション事業の業績は以下のとおりです。

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | | | |
| 販促 | 77.1 | 91.5 | 18.7% |
| 人材 | 55.1 | 56.5 | 2.7% |
| その他/消去 | 0.7 | 3.6 | 393.1% |
| 合計 | 132.9 | 151.8 | 14.2% |
| 調整後EBITDA | 27.3 | 31.5 | 15.2% |
| 調整後EBITDAマージン | 20.6% | 20.8% | - |

(注)メディア&ソリューションSBUは2021年4月1日付で実施した国内中核事業会社・機能会社7社の統合と組織改編により、企業クライアントの抱える様々な課題解決により迅速に貢献できる組織構造となりました。個人ユーザーと企業クライアントを繋ぐオンラインプラットフォームや業務・経営支援ツールのSaaSソリューションの提供を通じて、メディア&ソリューション事業は、企業クライアントの事業運営に係る経済活動全般を支えるエコシステムの構築を推進していきます。この組織再編に伴い、当第1四半期より事業戦略とそれを推進する新たな経営体制に合わせて、業績数値の開示方法を変更します。また、従来各領域に振り分けていた一部事業の売上収益はその他/消去に計上されます。

当第1四半期の売上収益は、販促領域及び人材領域が共に増収となり、前年同期比で14.2%増加しました。

当第1四半期は日本国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大とその防止策による経済活動への影響が継続し、個人の生活や企業クライア

ントの営業活動が制限されましたが、経済活動は緩やかに回復しました。この結果、感染拡大予防に係る規制による制約をより著しく受けていた前年同期と比較すると、販促領域における、住宅、美容、旅行、結婚、飲食分野の全てが大幅な増収となり、特に住宅及び美容分野が販促領域の売上収益の回復を牽引しました。

Air ビジネスツールズを中心としたSaaSソリューションにおいては、Airペイを中心にアカウント獲得が進み、2021年6月末時点でAirペイのアカウント数は前年同期比41.6%増の22.8万件、そのうちAir ビジネスツールズの他のソリューションを併用しているアカウント数は14.6万件となりました。

人材領域のアルバイトやパート向け求人広告サービスは飲食業や販売業の求人広告の割合が高く、前第1四半期はコロナ禍の影響が大きいこれらの業種の企業クライアントによる広告出稿が大幅に落ち込みました。しかし、当第1四半期は求人広告サービスが緩やかに回復したことから増収となりました。人材紹介サービスは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大影響が軽微であった2020年3月期第4四半期までの採用需要を反映した売上収益を含む前第1四半期水準には至りませんでした。企業クライアントの採用需要は回復が続きました。

当第1四半期は戦略的なマーケティング投資及び商品開発投資を実施し、調整後EBITDAマージンは前年同期とほぼ同水準の20.8%となりました。調整後EBITDAは15.2%の増益となりました。

人材派遣事業

当第1四半期の人材派遣事業の業績は以下のとおりです。

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | | | |
| 日本 | 145.8 | 146.9 | 0.8% |
| 欧州、米国及び豪州 | 128.4 | 188.2 | 46.5% |
| 合計 | 274.2 | 335.1 | 22.2% |
| 調整後EBITDA | | | |
| 日本 | 17.0 | 16.1 | △5.0% |
| 欧州、米国及び豪州 | 2.8 | 10.1 | 256.4% |
| 合計 | 19.8 | 26.2 | 32.3% |
| 調整後EBITDAマージン | | | |
| 日本 | 11.7% | 11.0% | - |
| 欧州、米国及び豪州 | 2.2% | 5.4% | - |
| 人材派遣 | 7.2% | 7.8% | - |

当第1四半期の売上収益は、主に欧州、米国及び豪州の増収により、前年同期比で22.2%増(注1)となりました。欧州、米国及び豪州の増益幅が日本の減益幅を上回ったため、調整後EBITDAマージンは7.8%となり、調整後EBITDAは前年同期比32.3%増となりました。

日本は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響を受けて派遣スタッフ数は前年同期比で減少しましたが、派遣スタッフの就業時間は休業により減少していた前年同期から回復し売上収益は前年同期比0.8%増となりました。調整後EBITDAマージンは11.0%となり、調整後EBITDAは5.0%減となりました。

欧州、米国及び豪州は、特に欧州のEコマースに関連する物流分野、コロナ禍における医療分野での需要が継続し、売上収益は前年同期比46.5%増(注2)となりました。売上収益が大きく増加した結果、調整後EBITDAマージンは5.4%となり、調整後EBITDAは256.4%増となりました。

(注1) 為替によるプラス影響178億円を控除した場合の売上収益は、前年同期比で15.7%増

(注2) 為替によるプラス影響178億円を控除した場合の売上収益は、前年同期比で32.7%増

(4) 当四半期における経営施策

新型コロナウイルス感染症の拡大に対する当社グループの取組み

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、引き続き従業員とその家族、個人ユーザー、企業クライアント及び外部協力パートナー等、当社のステークホルダーの安全確保や感染症拡大防止を最優先に考えながら、事業活動に取り組んでいます。また、各事業において、多様なステークホルダーの皆様に対する様々な支援・取組みを行っています。

詳細は当社ホームページ(<https://recruit-holdings.co.jp/newsroom/covid19.html>)に掲載しています。

また、職域での新型コロナウイルスワクチン接種を開始する政府の発表方針を受け、2021年6月21日以降準備が整い次第順次ワクチン接種を開始することを2021年6月15日に発表しました。ワクチンの供給が発表時の予定よりも遅れているため、2021年8月12日時点において接種はまだ開始していませんが、当社グループは、従業員及び当社グループが運営する国内派遣会社と雇用契約をされている派遣スタッフの皆様が安心して働ける職場環境を整備するとともに、新型コロナウイルス感染症の早期収束に少しでも貢献するよう、取り組んでいます。

51job, Inc.の非公開化取引に関して

当社は、当社が約34.8%株式持分(米国預託証券を含む)を保有する持分法適用会社である51job, Inc. (本社:中国上海)(NASDAQ:JOBS)(以下「51job」)の非公開化取引(以下「本取引」)に関する契約書の締結を2021年6月21日の取締役会にて決議し、同日調印しました。

本取引完了後の当社の51jobの発行済株式総数に係る持分比率は約37.0%、転換社債を含む完全希薄化ベースの持分比率は約42.7%となり、51jobは引き続き当社の持分法適用会社となる見込みです。

本件の詳細については以下をご参照ください。

2021年6月22日付「51job, Inc.の非公開化取引に関する契約の締結について」

https://recruit-holdings.co.jp/ir/ir_news/20210622_01.html

(5) 連結財政状態の概況

| | 前年度 (2021年3月31日) | 当第1四半期 (2021年6月30日) | 増減 | 増減率 |
|------------------|---------------------|------------------------|-------|-------|
| 流動資産合計 | 927.5 | 966.6 | 39.1 | 4.2% |
| 非流動資産合計 | 1,269.0 | 1,268.4 | △0.6 | △0.1% |
| 資産合計 | 2,196.6 | 2,235.0 | 38.4 | 1.8% |
| 流動負債合計 | 603.1 | 575.4 | △27.7 | △4.6% |
| 非流動負債合計 | 492.1 | 484.8 | △7.3 | △1.5% |
| 負債合計 | 1,095.3 | 1,060.2 | △35.1 | △3.2% |
| 親会社の所有者に帰属する持分合計 | 1,091.5 | 1,165.4 | 73.8 | 6.8% |
| 非支配持分 | 9.7 | 9.4 | △0.3 | △3.2% |
| 資本合計 | 1,101.2 | 1,174.8 | 73.5 | 6.7% |

当第1四半期末時点における現金及び現金同等物の金額は5,374億円、社債及び借入金を含み、リース負債を含まない有利子負債の金額は1,127億円、この差額のネットキャッシュは4,246億円です。ネットキャッシュの金額は、前年度末と比べ364億円増となりました。

当第1四半期末における当座貸越極度額の合計は1,130億円であり、当該契約に基づく借入実行残高はありません。加えて、当第1四半期末時点における2021年3月31日に締結した総額2,000億円のコミットライン契約に基づく借入実行残高はありません。

なお、当社は2,000億円(当第1四半期末における未使用枠2,000億円)を上限とする社債の発行登録を行っています。

(6) 連結キャッシュ・フローの概況

| | 前第1四半期 | 当第1四半期 | 増減 |
|---------------------|--------|--------|------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 86.8 | 84.9 | △1.9 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △25.0 | △20.5 | 4.5 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △35.6 | △27.8 | 7.8 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △1.3 | △0.0 | 1.3 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 24.6 | 36.4 | 11.7 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 421.2 | 501.0 | 79.7 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 445.9 | 537.4 | 91.5 |

当第1四半期の現金及び現金同等物の残高は、前年度末比364億円増加し、5,374億円となりました。

2. 連結業績予想に関する定性的情報

世界各国で新型コロナウイルス感染症に関する規制の緩和や再導入が実施され、日々事業環境が変化しているため、引き続き見通しは立てにくいものの、当社は、2021年5月17日に公表したHRテクノロジー事業及び人材派遣事業の当期見通しを変更し、当期の連結業績予想を修正しました。この修正は、当連結会計年度中に新たに大規模なロックダウンや緊急事態宣言の発出に伴う経済活動の長期的な停滞が起こらない前提と、当第1四半期実績及び2021年8月12日時点で入手可能な情報に基づいています。

HRテクノロジー事業の当第1四半期実績は、2021年3月期第4四半期から続いている米国市場における採用競争の過熱感が想定以上に高まり、期初想定を上回る増収増益となりました。修正前の通期業績見通しを公表した2021年5月17日時点では、米国市場における採用競争の過熱感は上半期中には一服すると見込んでいました。しかし、足元の事業環境を考慮し、また直近の新型コロナウイルス感染症の新規感染者の増加がこの事業環境に大きな影響を与えないと仮定すると、米国における採用競争の過熱感が和らぐのは、下半期中になるという見込みに変更します。しかし、その時期は引き続き不透明です。

また、人材派遣事業の欧州、米国及び豪州の当第1四半期実績は、特に欧州のEコマースに関する物流分野や、コロナ禍における医療分野での人材需要の高まりが継続したことから、期初想定以上の増収増益となりました。今後もこの強い人材需要が継続することを見込む一方、下半期にかけては緩やかに安定化することを想定しています。

2021年3月期に790億円(税抜)の売上収益を計上した経済産業省中小企業庁より受託した家賃支援給付金事務事業(家賃給付受託事業)は終了したため、当該事業に係る受託料は2022年3月期の連結業績予想には含まれません。また、2021年6月22日付で当社が公表した51jobの非公開化取引に関する契約締結が完了した場合においても、当社は51jobの株式の一部を譲渡し、受領する対価の転換社債及び現金の財務影響は投資簿価の減額とするため、当期の業績に対する影響は軽微となる見込みです。

配当予想は先行きが不透明な事業環境が継続するものの、長期的に安定的な配当を継続する方針に基づき、2022年3月期の中間配当予想金額及び期末配当予想金額はそれぞれ10.50円、年間配当金額の予想は前連結会計年度より1.00円増配の21.00円としました。

修正後の通期連結業績予想は以下のとおりです。

| 2022年3月期通期 業績予想 | | | | |
|----------------------|--------------------------|-----------------------|-------------------|---------------|
| 単位:十億円 | 修正後 | 前期比増減率 | 修正前 | 前期比増減率 |
| 売上収益 | 2,600.0 - 2,700.0 | 14.6% - 19.0% | 2,450.0 - 2,600.0 | 8.0% - 14.6% |
| 調整後EBITDA | 360.0 - 430.0 | 49.0% - 77.9% | 270.0 - 335.0 | 11.7% - 38.6% |
| 営業利益 | 270.0 - 340.0 | 65.8% - 108.8% | 180.0 - 245.0 | 10.5% - 50.5% |
| 税引前利益 | 270.0 - 340.0 | 60.2% - 101.8% | 185.0 - 250.0 | 9.8% - 48.4% |
| 当期利益 | 200.0 - 250.0 | 51.9% - 89.8% | 140.0 - 190.0 | 6.3% - 44.3% |
| 親会社の所有者に 帰属する当期利益 | 200.0 - 250.0 | 52.2% - 90.3% | 140.0 - 190.0 | 6.6% - 44.6% |
| 調整後EPS(円) | 136.32 - 166.92 | 65.1% - 102.2% | 95.51 - 126.10 | 15.7% - 52.7% |

通期連結業績予想の背景となる各事業の見通しは以下のとおりです。

| 2022年3月期 通期業績予想 | | | | |
|------------------|-------------------|------------------------------------|----------------------------|--------------------|
| 単位:十億円 | 修正後 | | 修正前 | |
| HRテクノロジー | 売上収益 | 米ドルベース前期比 +65% - +75%程度 | 米ドルベース前期比 +40% - +50%程度 | |
| | 調整後EBITDA マージン | 20%台後半 | 20%程度 | |
| メディア& ソリューション | 売上収益 | 販促領域 | 前期比 -3% - +9%程度(注) | 前期比 -3% - +9%程度(注) |
| | | 人材領域 | 前期比 +13% - +24%程度 | 前期比 +13% - +24%程度 |
| | 調整後EBITDAマージン | 前期と同程度 | 前期と同程度 | |
| 人材派遣 | 売上収益 | 日本 | 前期と同額程度 | 前期と同額程度 |
| | | 欧州、 米国及び豪州 | 前期比 +15% - +20%程度 | 前期比 +5% - +10%程度 |
| | 調整後EBITDAマージン | 前期と同程度 | 前期と同程度 | |

(注)2021年3月期の売上収益から、家賃給付受託事業に係る受託料790億円を除いた売上収益に対する増減

3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位: 百万円)

| | 前年度 (2021年3月31日) | 当第1四半期 (2021年6月30日) |
|-----------------|---------------------|------------------------|
| 資産 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び現金同等物 | 501,043 | 537,461 |
| 営業債権及びその他の債権 | 342,259 | 350,391 |
| その他の金融資産 | 39,043 | 33,948 |
| その他の流動資産 | 45,170 | 44,851 |
| 流動資産合計 | 927,517 | 966,651 |
| 非流動資産 | | |
| 有形固定資産 | 81,290 | 79,115 |
| 使用権資産 | 283,674 | 269,745 |
| のれん | 399,361 | 405,590 |
| 無形資産 | 206,793 | 204,838 |
| 持分法で会計処理されている投資 | 72,373 | 77,150 |
| その他の金融資産 | 183,016 | 189,470 |
| 繰延税金資産 | 38,350 | 37,683 |
| その他の非流動資産 | 4,235 | 4,844 |
| 非流動資産合計 | 1,269,096 | 1,268,437 |
| 資産合計 | 2,196,613 | 2,235,088 |

(単位: 百万円)

| | 前年度 (2021年3月31日) | 当第1四半期 (2021年6月30日) |
|------------------|---------------------|------------------------|
| 負債及び資本 | | |
| 負債 | | |
| 流動負債 | | |
| 営業債務及びその他の債務 | 243,905 | 218,074 |
| 社債及び借入金 | 54,673 | 54,685 |
| リース負債 | 36,415 | 36,604 |
| その他の金融負債 | 779 | 2,766 |
| 未払法人所得税 | 20,662 | 14,374 |
| 引当金 | 11,509 | 6,586 |
| その他の流動負債 | 235,224 | 242,320 |
| 流動負債合計 | 603,172 | 575,412 |
| 非流動負債 | | |
| 社債及び借入金 | 58,106 | 58,086 |
| リース負債 | 268,574 | 254,791 |
| その他の金融負債 | 895 | 896 |
| 引当金 | 11,331 | 10,951 |
| 退職給付に係る負債 | 57,039 | 57,441 |
| 繰延税金負債 | 71,839 | 78,126 |
| その他の非流動負債 | 24,365 | 24,513 |
| 非流動負債合計 | 492,152 | 484,807 |
| 負債合計 | 1,095,324 | 1,060,219 |
| 資本 | | |
| 親会社の所有者に帰属する持分 | | |
| 資本金 | 40,000 | 40,000 |
| 資本剰余金 | 17,422 | 17,113 |
| 利益剰余金 | 1,201,573 | 1,263,464 |
| 自己株式 | △180,148 | △179,579 |
| その他の資本の構成要素 | 12,723 | 24,467 |
| 親会社の所有者に帰属する持分合計 | 1,091,571 | 1,165,465 |
| 非支配持分 | 9,717 | 9,403 |
| 資本合計 | 1,101,289 | 1,174,869 |
| 負債及び資本合計 | 2,196,613 | 2,235,088 |

(2) 要約四半期連結損益計算書

第1四半期

(単位: 百万円)

| | 前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) | 当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) |
|------------------------|---|---|
| 売上収益 | 475,488 | 664,712 |
| 売上原価 | 237,988 | 292,032 |
| 売上総利益 | 237,499 | 372,679 |
| 販売費及び一般管理費 | 203,823 | 266,974 |
| その他の営業収益 | 2,861 | 866 |
| その他の営業費用 | 9,865 | 1,853 |
| 営業利益 | 26,671 | 104,717 |
| 持分法による投資損益 (△は損失) | 1,314 | 675 |
| 金融収益 | 1,508 | 1,020 |
| 金融費用 | 946 | 1,005 |
| 税引前四半期利益 | 28,547 | 105,407 |
| 法人所得税費用 | 6,090 | 27,363 |
| 四半期利益 | 22,457 | 78,043 |
| 四半期利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 22,323 | 77,864 |
| 非支配持分 | 133 | 179 |
| 四半期利益 | 22,457 | 78,043 |
| 親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益 | | |
| 基本的1株当たり四半期利益(円) | 13.54 | 47.64 |
| 希薄化後1株当たり四半期利益(円) | 13.52 | 47.49 |

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

第1四半期

(単位: 百万円)

| | 前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) | 当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) |
|-------------------------------|---|---|
| 四半期利益 | 22,457 | 78,043 |
| その他の包括利益 | | |
| 純損益に振替えられることのない項目: | | |
| その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動 | 5,276 | 1,162 |
| 確定給付型退職給付制度の再測定額 | — | — |
| 持分法によるその他の包括利益に対する持分相当額 | △32 | 40 |
| 小計 | 5,244 | 1,203 |
| 純損益にその後振替えられる可能性のある項目: | | |
| 在外営業活動体の換算差額 | 1,231 | 6,035 |
| キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の有効部分 | 323 | 45 |
| 小計 | 1,554 | 6,081 |
| 税引後その他の包括利益 | 6,798 | 7,284 |
| 四半期包括利益 | 29,256 | 85,328 |
| 四半期包括利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 29,149 | 85,153 |
| 非支配持分 | 106 | 174 |
| 四半期包括利益 | 29,256 | 85,328 |

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位: 百万円)

| | 親会社の所有者に帰属する持分 | | | | | | |
|------------------------|----------------|--------|-----------|----------|-------------|--------------|-----------------------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | その他の資本の構成要素 | | |
| | | | | | 株式報酬 | 在外営業活動体の換算差額 | キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の有効部分 |
| 2020年4月1日残高 | 40,000 | 18,904 | 1,067,492 | △113,244 | 5,584 | △30,557 | 271 |
| 四半期利益 | | | 22,323 | | | | |
| その他の包括利益 | | | | | | 1,258 | 323 |
| 四半期包括利益 | — | — | 22,323 | — | — | 1,258 | 323 |
| その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替 | | | 5,244 | | | | |
| 自己株式の取得 | | | | △1,927 | | | |
| 自己株式の処分 | | △649 | | 2,039 | △302 | | |
| 配当金 | | | △24,725 | | | | |
| 株式報酬取引 | | | | | 444 | | |
| 非支配株主との資本取引 | | | | | | | |
| その他の増減 | | | △38 | | | | |
| 所有者との取引額等合計 | — | △649 | △19,520 | 112 | 142 | — | — |
| 2020年6月30日残高 | 40,000 | 18,255 | 1,070,296 | △113,132 | 5,726 | △29,299 | 594 |

| | 親会社の所有者に帰属する持分 | | | | 非支配持分 | 資本合計 |
|------------------------|-------------------------------|------------------|---------|---------|-------|---------|
| | その他の資本の構成要素 | | | 合計 | | |
| | その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動 | 確定給付型退職給付制度の再測定額 | 合計 | | | |
| 2020年4月1日残高 | — | — | △24,702 | 988,449 | 7,293 | 995,743 |
| 四半期利益 | | | — | 22,323 | 133 | 22,457 |
| その他の包括利益 | 5,244 | | 6,825 | 6,825 | △27 | 6,798 |
| 四半期包括利益 | 5,244 | — | 6,825 | 29,149 | 106 | 29,256 |
| その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替 | △5,244 | | △5,244 | — | | — |
| 自己株式の取得 | | | — | △1,927 | | △1,927 |
| 自己株式の処分 | | | △302 | 1,088 | | 1,088 |
| 配当金 | | | — | △24,725 | | △24,725 |
| 株式報酬取引 | | | 444 | 444 | | 444 |
| 非支配株主との資本取引 | | | — | — | 100 | 100 |
| その他の増減 | | | — | △38 | 15 | △23 |
| 所有者との取引額等合計 | △5,244 | — | △5,101 | △25,158 | 115 | △25,043 |
| 2020年6月30日残高 | — | — | △22,977 | 992,440 | 7,515 | 999,956 |

当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位: 百万円)

| | 親会社の所有者に帰属する持分 | | | | | | |
|------------------------|----------------|--------|-----------|----------|-------------|--------------|-----------------------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | その他の資本の構成要素 | | |
| | | | | | 株式報酬 | 在外営業活動体の換算差額 | キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の有効部分 |
| 2021年4月1日残高 | 40,000 | 17,422 | 1,201,573 | △180,148 | 8,987 | 3,548 | 187 |
| 四半期利益 | | | 77,864 | | | | |
| その他の包括利益 | | | | | | 6,039 | 45 |
| 四半期包括利益 | - | - | 77,864 | - | - | 6,039 | 45 |
| その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替 | | | 1,203 | | | | |
| 自己株式の処分 | | △309 | | 568 | △177 | | |
| 配当金 | | | △17,159 | | | | |
| 株式報酬取引 | | | | | 5,836 | | |
| 非支配株主との資本取引 | | | | | | | |
| その他の増減 | | | △18 | | | | |
| 所有者との取引額等合計 | - | △309 | △15,974 | 568 | 5,658 | - | - |
| 2021年6月30日残高 | 40,000 | 17,113 | 1,263,464 | △179,579 | 14,646 | 9,588 | 232 |

| | 親会社の所有者に帰属する持分 | | | | 非支配持分 | 資本合計 |
|------------------------|-------------------------------|------------------|--------|-----------|-------|-----------|
| | その他の資本の構成要素 | | | 合計 | | |
| | その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動 | 確定給付型退職給付制度の再測定額 | 合計 | | | |
| 2021年4月1日残高 | - | - | 12,723 | 1,091,571 | 9,717 | 1,101,289 |
| 四半期利益 | | | - | 77,864 | 179 | 78,043 |
| その他の包括利益 | 1,203 | | 7,289 | 7,289 | △4 | 7,284 |
| 四半期包括利益 | 1,203 | - | 7,289 | 85,153 | 174 | 85,328 |
| その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替 | △1,203 | | △1,203 | - | | - |
| 自己株式の処分 | | | △177 | 82 | | 82 |
| 配当金 | | | - | △17,159 | △501 | △17,660 |
| 株式報酬取引 | | | 5,836 | 5,836 | | 5,836 |
| 非支配株主との資本取引 | | | - | - | 12 | 12 |
| その他の増減 | | | - | △18 | | △18 |
| 所有者との取引額等合計 | △1,203 | - | 4,455 | △11,259 | △488 | △11,748 |
| 2021年6月30日残高 | - | - | 24,467 | 1,165,465 | 9,403 | 1,174,869 |

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

| | 前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) | 当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) |
|----------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前四半期利益 | 28,547 | 105,407 |
| 減価償却費及び償却費 | 29,509 | 30,570 |
| 株式報酬費用 | 442 | 5,726 |
| 営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加) | 61,156 | △7,880 |
| 営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少) | △40,545 | △26,018 |
| その他の増減 | 15,203 | 16,867 |
| 小計 | 94,314 | 124,673 |
| 利息及び配当金の受取額 | 983 | 700 |
| 利息の支払額 | △861 | △897 |
| 法人所得税の支払額 | △7,594 | △39,571 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 86,841 | 84,905 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △5,324 | △4,761 |
| 無形資産の取得による支出 | △11,359 | △12,257 |
| その他 | △8,415 | △3,505 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △25,099 | △20,524 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| リース負債の返済による支出 | △9,807 | △10,619 |
| 自己株式の取得による支出 | △1,927 | — |
| 配当金の支払額 | △24,483 | △17,048 |
| その他 | 522 | △209 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △35,696 | △27,877 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △1,398 | △86 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 24,647 | 36,417 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 421,253 | 501,043 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 445,900 | 537,461 |

(6) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(7) 要約四半期連結財務諸表注記

1. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているセグメントです。当社グループは、事業の種類別にHRテクノロジー事業、メディア&ソリューション事業及び人材派遣事業の3つを事業セグメントとしており、報告セグメントもこれらと同一です。

HRテクノロジー事業は、Indeed、Glassdoor及びその他の関連する事業で構成されています。メディア&ソリューション事業は、販促領域及び人材領域の2つの事業領域で構成されています。人材派遣事業は、日本並びに欧州、米国及び豪州の2つの事業領域で構成されています。

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの利益は調整後EBITDA(営業利益 + 減価償却費及び償却費(使用権資産の減価償却費を除く) ± その他の営業収益・費用)です。

全社/消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費です。セグメント間の内部売上収益又は振替高は市場実勢価格に基づいています。なお、セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため記載していません。

前第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位: 百万円)

| | 報告セグメント | | | | 全社/消去 | 連結 |
|----------------------|----------|--------------|---------|---------|--------|---------|
| | HRテクノロジー | メディア&ソリューション | 人材派遣 | 合計 | | |
| 売上収益 | | | | | | |
| 外部顧客からの売上収益 | 73,199 | 131,831 | 270,456 | 475,488 | - | 475,488 |
| セグメント間の内部売上収益又は振替高 | 905 | 1,156 | 3,776 | 5,838 | △5,838 | - |
| 合計 | 74,105 | 132,988 | 274,233 | 481,326 | △5,838 | 475,488 |
| セグメント利益又はセグメント損失 (△) | 7,856 | 27,368 | 19,867 | 55,092 | △1,661 | 53,431 |
| 減価償却費及び償却費(注) | | | | | | 19,755 |
| その他の営業収益 | | | | | | 2,861 |
| その他の営業費用 | | | | | | 9,865 |
| 営業利益 | | | | | | 26,671 |
| 持分法による投資損益 (△は損失) | | | | | | 1,314 |
| 金融収益 | | | | | | 1,508 |
| 金融費用 | | | | | | 946 |
| 税引前四半期利益 | | | | | | 28,547 |

(注)減価償却費及び償却費は、使用权資産の減価償却費を除いた金額です。

当第1四半期(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位: 百万円)

| | 報告セグメント | | | | 全社/消去 | 連結 |
|----------------------|----------|--------------|---------|---------|--------|---------|
| | HRテクノロジー | メディア&ソリューション | 人材派遣 | 合計 | | |
| 売上収益 | | | | | | |
| 外部顧客からの売上収益 | 182,809 | 150,721 | 331,181 | 664,712 | - | 664,712 |
| セグメント間の内部売上収益又は振替高 | 1,612 | 1,127 | 4,005 | 6,745 | △6,745 | - |
| 合計 | 184,421 | 151,848 | 335,187 | 671,458 | △6,745 | 664,712 |
| セグメント利益又はセグメント損失 (△) | 69,439 | 31,517 | 26,280 | 127,238 | △1,560 | 125,677 |
| 減価償却費及び償却費(注) | | | | | | 19,972 |
| その他の営業収益 | | | | | | 866 |
| その他の営業費用 | | | | | | 1,853 |
| 営業利益 | | | | | | 104,717 |
| 持分法による投資損益 (△は損失) | | | | | | 675 |
| 金融収益 | | | | | | 1,020 |
| 金融費用 | | | | | | 1,005 |
| 税引前四半期利益 | | | | | | 105,407 |

(注)減価償却費及び償却費は、使用权資産の減価償却費を除いた金額です。

2. 後発事象

該当事項はありません。